

復活の主日・日中のミサ

福音朗読：ヨハネ 20・1-9

2026.4.5

カトリック高円寺教会 9:30
昌川信雄神父(クラレチアン宣教会)

皆さん、主の復活おめでとうございます。

わたしたちは日曜日を主の日と呼びます。それは、主イエスが日曜日に復活してくださったからです。こうしてわたしたちは主日ごとに集まって、主の復活を感謝し、世に遣わされていくんです。

この主の復活がなければ、わたしたちの信仰は全く虚しいものになってしまいました。なぜなら、主の復活というのは、主に向かって成長するわたしたちの不可解な人生——そうですね、わたしたち、生まれ落ちたときに、まるで死刑の宣告を受けて生まれ落ちて来るようなその世界。成長するために生きていると思ってるんですけど、誰の先にも死が待ってるじゃありませんか。まるで死刑の宣告を受けて生まれ落ちて来るようなこの不可解な人生に誰もが戸惑います。この人生の意味がわからないから。

しかし、成長するこのわたしたちの不可解な人生に、イエスは、永遠の命への道という意味をもたらしてくださった。神様はこの福音を世にもたらすために、わざわざ御子となって世に来られた方でした。しかし、かつて弟子たちにとって人生をかけて師と仰いだイエスは、先生と仰いだイエスは、奇跡さえ起こさせ、支配者からイスラエルを解放することができる力のあるメシアのはずでしたのに、権力に捉えられて、あっけなく十字架の死で終わって敗北者と映ったこのイエスに、弟子たちの期待というのは、計り知れない失望と混乱に変わります。

ところが、マグダラのマリアから空の墓を知らされた弟子たち、そのペトロとヨハネがそれを見届けたとき、生前イエスが残しておられた言葉、エルサレムに行って長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受けて殺され、3日目に復活することになっている、という言葉がよみがえてきます。

そして後に、鍵がかけられた部屋にイエスが入ってこられたとき、まるで亡霊ではないかと恐れた弟子たちに、イエスの開口一番は「あなた方に平和があるように」で

した。この平和の心こそが、これから弟子たちそしてわたしたちを世に遣わす、イエス様の使者としての必須条件だからです。世に平和をもらたすのは、人間の業ではありません。神様ご自身なんです。

ですから、聖霊に満たされた弟子たち——それから洗礼によってわたしたちも聖霊をいただいているんですよ——、この聖霊に満たされた弟子たち、わたしたちは、世が頼る武力に頼らずに「非対立」で福音を宣べ伝える、死を求めない平和の使者になっていくんです。非対立と言いましたけれども、非対立というのは——ガンジーは無抵抗主義だったでしょ——でもわたしたちのキリストは非対立主義なんです。非対立とは、主義主張が違っても、相手を敵と見なしません。非難せず、ただ正しいと思ったことを宣べ伝えます。そしてひたすら相手の回心を待つ。こうあらなければならないという自分の思い、自我に死ぬ、キリストの生き方なんです。これ非常に大切なことなんです。

わたしたち、敵のような加害者がやって来ると、負けるもんかと言って戦おうとするんです。相手をやっつけて自分の生き方を通すために。これは悪魔の罠なのです。なぜなら、悪魔が存在する場所というのは——皆さんご存知でしょう——わたしたちの自我がなんです。わたしたちの思い。この自我というのは、自己保身と自己中心性というエゴイズムなんです。このエゴイズムの中に悪魔が住むんです。ですから、わたしたちが自分の自我で相手と戦おうとしたら、相手も悪魔の仕業でやって来てるんですから、悪魔と悪魔が競合して戦争になって滅んでいくのがこの悪魔の思うつぼなんです。ですからわたしたちは決して悪魔の罠にかかってはなりません。

それ故、キリストの十字架というのは、主の復活に与らせてくださる信仰者の喜びとならなければならないのです。

主イエスは地上に本当の平和と救いを求めてきたんですけれども、実はこれを妨げているのは、人間の本性なんです。さっきも言いました。本性というのは、自己保身と自己中心性、エゴイズムなんです。このエゴイズムというのは、自分の幸せを求めて競争し、対立すれば戦争で全てを破壊して、神様の心を踏みにじって、滅びに至る悪魔の罠なんです。すべての人の中に住むこのエゴイズムがなくならないかぎり、確かにイエス様の願いは実現しないでしょう。しかし、この無謀にも見える、自我に死

んで、聖霊に身を委ねて、愛の掟を始める、イエス様はこの生き方を引き受けた人なんです。

そして今や、わたしたちの敵は人ではありません。本当の敵は、その人の背後でその人をコントロールしている悪霊なのだということです。だから、悪霊のすみかであるわたしたちのこの自我に死ぬために、イエスは十字架に昇るんです。世界の誰からも「お前が神なら降りてみよ」と言って神様であるということを知られないまま死んでいく。武力による戦争というのは悪霊の仕業に他なりません。だから、主イエスは十字架の死をもって、自分の思い、自分の自我に死んで、悪霊に勝利する生き方、これをわたしたちに教えて、復活の主となって、わたしたちを待っておられるんです。

どうぞ、わたしたち、洗礼を受けたときにこの復活に与る恵みをいただいたこと思い起こしましょう。そして初心に帰って、イエス様のご聖体をいただくごとに、主の似姿に変えていただけますように。みははマリア様にこの恵みの取りなしを願いましょう。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>